

ようこそ



和合りんごまつり へ

5回目を迎えた、和合人の手づくりイベントです。

和合産「無袋ふじ」にタップリ入った蜜のように、和合人のこだわりとおいしさがタップリの祭です。

りんごや芋煮、和合の秋を味わいながら、ゆったりとお過ごしください。

伝統の太鼓やりんごを使ったゲームも用意します。

第5回和合りんごまつり実行委員会

【日 程】 2012.10.8 (体育の日)

うまい芋煮 … 和合の母ちゃん手づくり【10:00 すぎの開店から 先着 600 食】

旬のりんご … 今が旬の和合りんご展示・試食・即売【10:00～】

太鼓の演奏 … 和合の子どもたち「和合豊年太鼓」【①10:50、②12:10】

ゲームなど … だれでも参加 OK、和合ならではのレクリエーション【11:30～14:00】

①りんご釣り ②ホールインワン ③輪投げ

④りんご皮むき ⑤紙ひこうき飛ばし ⑥綱引き ◎景品有り

和合人出店 … 和合の得て前な技を出店しました【10:00 ～ 15:00】

①りんご ②アップルパイ

③クッキー ④りんご加工品

⑤ジャムやコンポート

⑥玉こんにゃく、軽食

⑦ビール ⑧ジュース

⑨ダチョウや豚肉の薫製品

⑩おもちゃなど

◆いろいろ覗いてみてくださいネ



「無袋ふじ」の生みの親が語る…朝日町のりんごの話

和合りんごまつりに於いて

みなさん こんにちは。秋の行楽の一日。和合りんごまつりで楽しんでください。

121年程前、始めて和合平の地にりんごを植えられた先人の方々の努力を基礎に今の和合があります。

日中戦争、太平洋戦争当時、食糧の増産の影に隠れ育てられてきたりんごは、終戦後の疲れた心を癒してくれました。当時、唄われたりんごの歌は、松竹映画「そよかぜ」の主題歌です。

終戦直後のヤミ市場でインフレにあえぐ庶民は、替え歌にして歌っています。

～赤いりんごの露店の前で ♪ 黙ってみている青い顔 ♪ りんごの値段は知らないけれど、りんごのうまさはよくわかる ♪ りんご高いや、高いやりんご～

67年前に、このような替え歌が登場したものです。

この和合は、生活の糧として葉タバコの生産、ビールの素のホップ作り、そしてお蚕。養蚕地帯としては山形県でも大きいほうでありました。

そして昭和20年の終戦の後。山の傾斜地を唐鍬で、ひと鍬、ひと鍬、土を起こしりんごを植え始めました。

始めのりんごの品種は、紅玉・倭錦・印度・ゴールデンデリシャス・デリシャス・国光であったようです。今、世界のりんごの頂点を極めている「ふじ」は、1939年(昭和14年)今から73年前。青森県の藤崎町の果樹試験場で、国光にデリシャスを交配して育種された中から選抜され生まれたのが東北7号です。1962年(昭和37年)に「ふじ」と命名され、一般に植え付けが始まりました。

朝日町ではその2年前、東北7号という呼び名の頃に試作に入りました。そして、それまでの品種と違った「ふじ」のうまさに皆、生産者は高接の一挙更新をはじめ、国光・紅玉・スターキングに人それぞれ競って高接して、品種の転換を始めました。

しかし、高接病(保毒した枝を接いだ場合)に犯され、枯れるものも出て苦闘が続きました。

先進地の長野県・青森県と足をのびし思考錯誤の毎日でした。

昭和39年、東京オリンピックも終わり景気の「はづみ」からか昭和43年。りんごの大暴落があり、山や川に捨てたという山川市場の青森県のこともしりました。

在来品種から勢いよく「ふじ」に品種が転換され、徐々に「ふじ」の市場の占有率が高くなった関係もあったようです。

「無袋ふじ」とは…

りんごの「ふじ」、朝日町では「無袋ふじ」といいます。一般に「サンフジ」でおおっています。

朝日町でも昔のりんごづくりといえば、一個一個袋をかけ、色を紅くするために苦勞してきたのです。収穫期の問題、日当たりをよくするための整枝・剪定のやり方への工夫も必要でした。

袋をかけずに栽培しようとする提案が動き出したのは、1945年、「ふじ」の朝日町品質検討会の求評がきっかけでした。当時、「ふじ」のりんごをきれいな鮮やかな色に仕上げるため、多種多様の袋が開発され研究されていた段階に、私の「無袋ふじ提案」は大きな反響を生みました。

袋をかけたものは、色鮮やかに出て見た目はよいが、甘みがまろやかで酸味がとぼしい感じ。袋をかけないものは、甘酸が適和、食味がよかった。実際の試食を通じて、参加者の求評の結果、袋をかけないりんご栽培の確立に向け、和合はもとより町をあげて取り組みだしたのでした。

そのあと果物づくりの将来は、本物の味をつくりあげることによって「無袋研究会」で研究の方向付けをつくり普及センター、試験場と一緒に磐石の「無袋ふじ」の産地をつくりあげたのでした。結果、全国に先駆け、市場の評価を得ることができました。

今尚、県開発品種の「秋陽」と長野県育種の「シナノスイート」の品質向上と良質生産に努めています。

朝日町和合 菅井 功